

3.5 自主防災組織の活動

3.5.1 総合防災訓練

1. はじめに

松山市では、年に一度、総合防災訓練を実施している。総合防災訓練では、自然災害への備えを強化し、市民の安全意識を高めること、また、自治体、消防局、警察、自衛隊、医療機関、企業、地元自治会、自主防災組織、教育機関、市民などの関係機関の連携や実践的な対応力を向上させることを目的に、災害発生を想定した初動対応訓練、消防による救助活動の実演、医療関係者による応急手当の実施、災害状況報告と情報収集・提供のシミュレーション訓練などを実施している。



令和6年度松山市総合防災訓練の様子

2. 自主防災組織の活動

総合防災訓練は、毎年異なる地区で実施しており、地元の参加・協力は不可欠となっている。中でも例年、地元の自主防災組織が中心となり、避難所開設・運営訓練を実施している。訓練では、実際に災害が発生したことを想定し、避難所となる施設の準備や必要な備品の搬入と配置、また、避難者の受付や配慮が必要な方への対応などを体験する。自主防災組織は、普段からの地域のつながりを有し、避難所の運営を円滑に行うための重要な基盤を備えている。このような訓練を通じて、地域住民がさらに連携を強化し、もしもの時に協力し合うコミュニティの構築にもつながっている。



避難所開設準備の様子①



避難所運営訓練の様子②



避難所開設準備の様子③

3.5.2 マイ・タイムライン講座

1. はじめに

マイ・タイムラインとは風水害（大雨・台風）からの逃げ遅れをなくすため、自分や家族がとるべき行動をあらかじめ定めた防災行動計画のことである。松山市では、マイ・タイムラインを地域や学校に普及させるため、令和4年3月に、まつやま総合防災マップに併せて「マイ・タイムラインシート」を全戸配布した。また、「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」と、市立の中学1年生約4,000名が、学校のタブレットで作成する「Web版マイ・タイムライン」を開発し、令和5年4月から運用を開始している。



マイ・タイムライン講師養成研修の様子

2. 自主防災組織の活動

松山市は、この「マイ・タイムライン」の更なる普及を目的として、令和4年度に市内41地区の自主防災組織の役員や防災士の方々を対象に、マイ・タイムライン講師養成研修を実施した。さらに、この講習の参加者は自分たちの地区にて、マイ・タイムラインの作成研修を行った。また、令和5年度には、松山市自主防災組織ネットワーク会議の分科会にて、松山市マイ・タイムライン防災アプリの講習会を実施した。このように、自主防災組織を通じて「マイ・タイムライン」が地域に広く普及している。



各地区でのマイ・タイムライン作成研修の様子



松山市マイ・タイムライン防災アプリ講習会の様子



3.6 松山防災士フォローアッププログラム

3.6.1 松山防災士フォローアッププログラムの概要と目的

松山市は平成 17 年度から防災士資格費用を全額負担し、令和 6 年 8 月に全国の市区町村で初めて、防災士数が 1 万人を超えた。

全国の市区町村で最多の防災士を擁しているが、地域防災力の向上には、防災士数を増やすだけでなく、個々のスキルアップも大変重要な課題である。

防災士資格取得から 10 年以上が経過している方も多し。知識や技術の向上に意欲を持っているが、資格取得後に専門の研修等を受けられず、そのような機会を求める声も少なくない。

加えて、災害に関する情報や常識は日々更新されており、過去に資格を取得した人も学び直しの機会が必要である。

この松山防災士フォローアッププログラムでは、防災に関する 14 のテーマを、実技を交えながら様々な専門家から指導を受けることができる。受講対象者は松山市に在住または勤務している防災士とし、各々が自分に合ったテーマを受講できるよう、テーマを初級・中級・上級にレベル分けしている。なお、レベルによる受講制限はなく、研修内容の難易度の目安として設定している。

プログラムを受講することで、防災士各々がスキルアップし、地域防災力の向上につながる。また、防災士同士のつながりが増えることで、活発な情報交換や連携の意識が高まり、より効率的な災害対応が可能となることを目的としている。



パンフレット表紙



パンフレット内面

3.6.2 防災・気象情報の収集と活用

近年、テレビやラジオの天気予報だけではなく、スマートフォンやパソコンのニュースやアプリ等から、正確な気象情報を迅速に入手することができるようになった。しかし、それらの情報はどの機関が、どのように発出しているのか正しく理解している人は少なく、また、専用のスマートフォンアプリ等の使い方については、高齢者に限らず、ある程度の知識がないと扱いづらいことも事実である。

このプログラムでは、気象情報等が発出される仕組みから、情報の入手方法等までを学ぶとともに、適切な情報管理のもと、災害から身を守る術を習得することを目的としている。

【講師と内容】

本プログラムは3つのパートごとに、それぞれの講師から専門的な知識を学ぶ。

1. 気象のはなし【松山地方気象台】

気象情報の発信及び気象台から発出される情報の収集と活用について

2. 防災情報とマイ・タイムライン【松山市市民防災安全課】

松山市が発出する防災情報や、松山市が開発した「松山マイ・タイムライン防災アプリ」を用いて実際にマイ・タイムラインを作成する

3. 川のはなし【松山河川国道事務所】

河川の氾濫情報をどのように発出しているのか、また、平常時からの河川の管理等について学ぶ

本プログラムは災害時の基本ともいえる情報収集に特化した研修になっている。災害時は適切な情報を入手することで、適切な行動につなげることが可能となるため、誰もが学んでおくべき内容となっている。

参加者からは「気象庁のHPは普段からよく見ているが、情報が示す内容や台風予報円の見方を知ることができて良かった。」「アプリがこんなに便利であると知ることができて良かった」という声が聞かれ、普段使い慣れているツールや情報でも、専門家から改めて学ぶことで、新たな発見や知識を得ることができる内容になっている。



令和7年度の様子

3.6.3 住宅耐震・家具固定

大規模な地震災害では、住宅の耐震化や家具を固定しているかどうか、生死を分ける大きな要因であり自助の最たる備えといっても過言ではない。近い将来、発生が危惧されている南海トラフ地震から身を守るためにも、防災士に限らず多くの方に有用なテーマである。

このテーマでは、DCM 株式会社と東京海上日動火災保険株式会社、松山市建築指導課の協力により、家具固定や住宅の耐震化、地震保険について学び、大規模な地震災害の発生に備え、命を守ることを目的としている。

【講師と内容】

1. 家具固定について【DCM 株式会社】

突っ張り棒を用いた棚の固定、ガラス飛散防止フィルム貼付の実践

2. 住宅耐震について【松山市建築指導課】

住宅耐震化の重要性について解説し、松山市が実施している木造住宅耐震診断及び耐震改修等補助事業を紹介

3. 地震保険について【東京海上日動火災保険株式会社】

地震保険について説明

大規模な地震が発生した時の住宅倒壊による圧死の危険性や、家具の転倒防止の効果について学ぶことができるプログラムとなっている。

参加者からは「ブロック塀の施工や地震保険の仕組みを深掘りして学べたり、実際に突っ張り棒の取付などを体験でき、得るところが多々ありました。」という声が聞かれた。



令和 6 年度の様子(ガラス飛散防止フィルム貼付)



令和 6 年度の様子(突っ張り棒設置)

3.6.4 ペット防災

日本では約 30%の人がペットを飼育している。大規模な災害が発生し、避難をする際、自宅で飼っているペットについて、飼い主としてどのような対応をとればよいのだろうか。また、避難所では、どのようにペットを受け入れるべきなのだろうか。災害の状況やペットの種類、家族構成など、様々な要因により、柔軟な対応が求められる。

このテーマでは、ペットと一緒に避難を考えることで、人もペットもみんなが助かるインクルーシブな地域社会を築き、防災・減災につなげることを目的としている。

【講師】

NPO 法人ペット防災サポート協会

【内容】

1. 講義（ペットと一緒に防災を考える）

住まいや飼養場所の防災対策、ペットが行方不明にならないための対策、ペット用の避難用品や備蓄品の確保、家族や地域住民との連携、ペットの一時預け先の確保など

2. ワークショップ①（ペット・マイタイムライン）

ペットと一緒に災害発生時の行動について考える

3. ワークショップ②（避難所運営 with PET）

災害時の避難所でのペットの受け入れについて、ケースごとにグループワークを通じて考える。

ペットとの防災に限らず、災害時の行動に正解はない。それぞれが異なる考えや立場を理解し、助け合うことで災害を乗り越えることができる。ペット防災という視点から、他者への思いやりや備え、マナーといったシンプルで当たり前のことを学ぶことができる。

参加者からは「とても勉強になった。ペットが苦手な方や運営側の気持ちも考える必要があると思った」「まだまだペット同伴避難所の開設は難易度が高いが、必要な課題だと思うので、今回は勉強になった」などの意見があり、ペットを飼っていない人にも大変有用な研修となっている。



令和 6 年度の様子

3.6.5 災害ボランティア

大規模災害が発生した場合、行政はもちろん、地域住民やNPOのほか、全国から駆け付けるボランティアが連携し、被災者に寄り添って支援するのが早期の復旧、復興の近道である。

過去の災害での災害ボランティアの活動状況や災害ボランティアの心構え、災害ボランティアセンターの役割などを学ぶ。

【講師と内容】

1. 災害とボランティア活動【認定特定非営利活動法人 日本防災士機構】

ボランティア活動を実施する際の心構えと災害ボランティアセンターの運営を学ぶ

2. 災害ボランティアセンターの機能【松山市民防災安全課】

災害ボランティアセンターでの受付、グループ作り、マッチング、資機材準備など、一連の流れをシミュレーション形式で学ぶ

3. 松山市社会福祉協議会の取組【松山市社会福祉協議会】

松山市社会福祉協議会がどのような活動を行っているのか

参加者からは「能登半島地震等の状況や活動内容を含め災害ボランティアセンターの役割や機能、運営など参考になった」「ボランティアの仕組み、参加の流れについて学ぶことができ、ボランティアに参加しようと思った」という意見があり、災害ボランティア活動の知識を深めるとともに、ボランティアに対する意欲の向上につながった。



令和6年度の様子(ボランティアセンターの資機材見学)



令和6年度の様子(講義)

3.6.6 男女共同参画と防災

災害時は焦りや不安などから、平常時と違い周囲に配慮できず、偏った考えや意見が出やすくなる場合がある。特に避難所では、さまざまな人たちが共同生活を送ることから、円滑に運営し、誰もが過ごしやすい環境とするには、性差によるニーズの違いや課題の認識など男女それぞれの視点が必要である。本研修では、災害時を想定し、ロールプレイング形式で、避難所運営やボランティア活動に必要な男女共同参画の視点を学ぶことを目的としている。

【講師】

松山市男女共同参画推進財団、女性と防災の会

【内容】

1. 講義「男女共同参画とは」
2. グループワーク「ケーススタディで考える男女共同参画と防災」
班ごとに災害時に想定しうる様々なケースで男女共同参画について話し合う

この研修では、性別による偏見があることを認識し、どのように考えて行動すれば、災害時、誰もが過ごしやすくすることができるかを学ぶことができる。

グループワークでは班ごとに活発な意見交換がされており、「男女はもちろん、様々な年代、職種の方と意見交換ができ、多様な意見に触れることができる、大変有意義な時間になった」との声があった。



令和6年度の様子(講義)



令和6年度の様子(グループワーク)

3.6.7 災害時の食と栄養

大規模災害時は電気・ガス・水道のライフラインが使用不能になることが想定される。また、平常時には簡単に手に入る様々な食材も、すぐには入手できなくなる。そのため、家庭で備蓄している非常食や避難所で提供される食事では十分な栄養を取ることが困難になることも想定される。

このテーマでは、災害時における食の重要性について講義を受けるとともに、災害時でも調理しやすいパッククッキング（耐熱性のポリ袋に食材と調味料を入れ、鍋で湯せんする調理法）などを学ぶことで、災害時の食に関する知識を向上させることを目的としている。

【講師】

松山東雲短期大学 食物栄養学科

【内容】

1. パッククッキングの調理方法と調理
2. 講義「災害時の食と栄養について」

被災時の食事情や食と栄養の課題、食料備蓄とローリングストックなどについて学ぶ

3. 試食

本研修では、生きる上でかせない災害時の食について、講義を受けるだけではなく、パッククッキングを通して、実践的な調理方法を学ぶことができる。パッククッキングは班ごとに調理するため、複数人でコミュニケーションを取ることも重要である。

参加者からは「簡単においしく作ることができて驚いた。炊飯器がなくてもご飯が炊け、おかずが作れることは、広く知っておくとよい知識だと思う。こうしてみんなでわいわい作るのも、災害時には癒しになっていいのではないかと思った」「今回学んだことを今後地区の避難訓練や女性防火クラブの方々と共有して避難所運営に活かしていきたい」という声があった。



令和6年度の様子(講義)



令和6年度の様子(パッククッキング)

3.6.8 防災訓練・研修の企画と実践

松山市では自主防災組織が 740(令和 7 年 4 月時点)あり、市内全域で結成されている。自主防災組織では様々な防災訓練を頻繁に実施している組織もあれば、中には、「どのような訓練を実施すればよいか分からない。」「毎年同じ訓練でマンネリ化している。」といった組織も存在する。

本研修では、防災訓練や研修を企画・実践するための手順や、様々な訓練・研修のアイデアを学ぶことができ、地域のみならず、職場でも訓練や研修を計画し、実施できるようになることを目的としている。

【講師】

日本防災士会 愛媛県支部

【内容】

グループワーク「防災訓練・研修を企画しよう！」

防災訓練や研修の企画・実践手順に沿ってグループで防災訓練を企画する

本研修では、防災訓練が必要な理由から企画する手順、市内での実践例まで紹介することで、防災訓練の企画から実践までを分かりやすく、イメージしやすい形で学ぶことができる。

参加者からは「現実には仲間を作ることから始めているが、まだまだ大きな壁が立ちほだかっている。一歩ずつ進めて行きたい」「グループワークを通して色々考える機会となり、様々なアイデアを得られた」等の意見があった。



令和 6 年度の様子(グループワーク)



令和 6 年度の様子(講義)

3.6.9 上級救命講習

普通救命講習は防災士資格を取得する際の要件となっているため、松山防災士フォローアッププログラムに参加する全員が必ず受講しているが、上級救命講習は普通救命講習の内容に加え、外傷の手当や搬送方法など、より実践的で幅広い応急処置を学ぶことができる研修となっている。

【講師】

松山市消防局救急課・松山市消防団

【内容】

1. 心肺蘇生法(全年齢対象)・AED の使用方法
2. 異物除去法・止血法
3. 保温法・体位管理・搬送法
4. 外傷の応急手当
5. 効果確認

参加者からは「救急法の講習は、何度参加しても緊張する。機会があれば年に一度くらいは参加したい」「実技が多くあり、大変参考になった。実際に生かせるようになりたい」といった意見があった。実技によるレクチャーで大変分かりやすかったという意見が多く、大変有意義な研修となっている。



令和6年度の様子(心肺蘇生法)



令和6年度の様子(講義)

3.6.10 災害時のトイレ対策

大震災時、水洗トイレは給排水管の破損や污水处理施設の損壊など、様々な原因で使用できなくなることが想定される。長時間（数日～数週間）トイレが使用できなくなった場合、どのように対応すればよいのだろうか。

排泄は人の生理現象であり、災害発生後から直面する大きな課題である。災害時のトイレ対策について学び、考えることで、研修後の対策につなげることを目的とする。

【講師】

日本防災士会 愛媛県支部

松山市環境指導課・松山市公営企業局下水道整備課

【内容】

1. 災害時のトイレを考えよう（講義）
2. 災害時の排水設備チェック方法 浄化槽編
3. 災害時の排水設備チェック方法 下水道編
4. 携帯トイレを使ってみよう
5. 避難所トイレ対策ワークショップ

この研修では、災害時のトイレ事情について、過去の事例から学ぶだけでなく、避難所でのトイレ設置について学ぶ。普段は当たり前に見えるトイレが使えなくなるという状況について考え、災害時でも普段に近い形で生活できるよう、衛生環境を整え、対策することが重要である。

参加者からは「簡単だと思っていたトイレ設営だが、見るのと実際にやるのとでは違って、意外と戸惑った。実際にできて役立った」といった声があった。トイレの重要性に気付かされたという意見も多く、今後も継続して行うべきテーマである。



令和6年度の様子(避難所トイレ設置)



令和6年度の様子(グループワーク)

3.6.11 要配慮者支援

要配慮者とは、災害対策基本法で、「高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者」と定義されている。平常時の生活で何らかの配慮が必要な方々は、災害時にはさらに多くの支援が必要となる。そのため、災害対策基本法では要配慮者に関して、避難の際の支援体制や福祉避難所の設置、情報提供の工夫といった配慮をするよう求めている。

本研修では、法の趣旨を踏まえながら、防災士として、災害時における要配慮者の現状と課題、支援の重要性や対応について理解を深めることを目的としている。

【講師】

一般社団法人 愛媛県災害リハビリテーション支援協会

【内容】

災害時の要配慮者支援を考える～防災士としての役割を実践～

この研修では、要配慮者への支援について講義で学ぶだけではなく、「災害時に特に配慮が必要となる対象者を考える」「要配慮者が参加できる訓練を考える」「高齢者・視覚障がい者に対する避難所環境整備を考える」といったテーマでグループワークを実施し、活発な意見交換が行われた。

参加者からは「要配慮者支援において、対象者となる「高齢者」「妊産婦」「外国人」等について、具体的な困り事を知ることができ、今後の避難所開設のヒントになった。地域の防災勉強会や避難訓練でも取り入れていきたい」といった意見があった。

要配慮者によっては、支援に専門的な知識が必要とされる中、防災士に何ができるのかを考えるきっかけになる研修である。



令和6年度の様子



令和6年度の様子

3.6.12 防災まち歩き・防災マップ作り

大規模な地震や洪水などの災害が発生すると、街の様子が一変し、指定避難所までの避難経路が倒壊家屋によって使えなくなってしまうなど、思いもよらない事態に陥ることが想定される。

そこで、平常時に「もし災害が発生したら・・・」と考えながら、地域を歩いて回り、危険な場所や災害に役立つ防災設備などをマップに落としこみ、まちの現状を把握する。このように「防災まち歩き・防災マップ作り」を実施することで、まちの潜在的なリスクを掘り起こし、避難のシミュレーションやリスク回避につなげる力を養うことが、本研修の目的である。

【講師】

松山市市民防災安全課

【内容】

1. 防災まち歩き実施要領説明
2. 防災まち歩き
3. 防災マップ作り
4. DIG（災害図上訓練）
5. 防災マップ発表

今回の研修は開催場所（松山市保健所・消防合同庁舎）を中心に4エリアに分かれてまち歩きを実施した。参加者はまず、地図上でオープンスペースや河川、指定避難所等を把握しておき、ルートを決める。そして、①危険なもの、②災害時に役に立つもの、③一時的に避難できる場所、④災害対応資機材のある場所といった災害の視点で実際にまちを歩くことで、地図を見ただけでは気付くことができない危険な場所を確認することができる。

参加者からは「実際にまちで災害が起きたらという視点で学ぶことができるのは、意識啓発にもなるし、貴重な機会でよかった。」という声もあり、実際にまち歩きをする意義は大きい。



令和6年度の様子(マップ作成)



令和6年度の様子(まち歩き)

3.6.13 救出技術・初期消火・安全管理

阪神・淡路大震災において、倒壊家屋からの救出の割合は「自助」と「共助」によるものが約 97%となっているように、大規模災害が発生した直後に救出活動を行うことは、防災士として求められる役割の一つである。特に大規模な地震発生時は「自助」と「共助」の重要性が高い。

そのため、本研修では防災士として、災害時に倒壊した建物や家具から人を救出するための技術や、搬送方法、火災時の消火方法を体験し、「共助」により人命を助けるための実践的な技術を学ぶことを目的としている。

【講師】

松山市消防局西消防署

【内容】

1. 訓練内容について説明
2. コンロなどからの出火を想定した消火訓練
3. 倒壊建物などからの救出訓練
4. 搬送・救護訓練

本研修は、比較的身近にある資機材を用いて、現職の消防隊員から救出技術を学ぶことが特徴である。消火訓練では、実際にオイルパンに点火し、粉末消火器を用いて消火する。また、救出訓練では、転倒したタンスやコンクリートブロックからバールやジャッキを用いて、救出活動を実施する。搬送・救護においては、担架に人を乗せた状態で階段の上り下りを行うなど、実災害時の救助活動をリアルに体験できる内容になっている。

参加者の理解度、満足度は大変高くなっており、内容を忘れないように繰り返し受講したいという声も多かった。



令和 6 年度の様子(救出訓練)



令和 6 年度の様子(消火訓練)

3.6.14 HUG(避難所運営ゲーム)

災害時の対策活動の中でも特に重要なものの一つに避難所運営がある。大規模な災害時は、地域の住民や避難者たちで避難所を運営し、自治体職員や学校教員の管理者ができる限りサポートをする体制とすることが、災害関連死を防ぎ、速やかな復旧・復興につなげることができる。

本研修で実施する HUG（避難所運営ゲーム）は避難所運営を疑似体験できるカードゲームで、避難者の年齢や性別、国籍、抱える事情などを考慮しながら、避難所の平面図に適切に避難者に見立てたカードを配置し、発生する出来事に対応していくことで、避難所運営を学ぶことができる。

【講師】

日本防災士会 愛媛県支部

【内容】

1. HUG（避難所運営ゲーム）要領説明
2. HUG（避難所運営ゲーム）実施
3. 振り返り

このゲームは、1 班 10 人程度に分かれて実施する。ゲームは、カード読み上げ係が避難者ごとの家族構成や家屋の被災状況、病歴などを読み上げ、参加者は避難所の平面図にカードを配置していく。序盤はカードを置くスペースも広く、テンポよく配置することができるが、後半になるにつれ、誰をどこに配置すればよいのか、よく考えなければ配置できない状況となっていく。班のメンバーとのコミュニケーションも大切な要素になっている。

参加者からは「災害時の避難所運営は混乱が避けられず、知識の事前共有や役割分担の重要性を再認識できた。」「地域の自主防災組織との連携が鍵となり、被災者の支援に役立つような資格の保有者や運営の経験者の適切なアドバイスが効率化につながると感じた。」という意見があった。



令和 6 年度の様子



令和 6 年度の様子

3.6.15 リアル HUG(避難所運営ゲーム)

HUG（避難所運営ゲーム）では机上で避難所開設を体験したが、リアル HUG はその名のとおり、実際の避難所である小学校のグラウンドや体育館を用いて地震発生直後の避難所開設と初動期の運営について学ぶ。

大規模災害時、避難所の開設当初は非常に混乱することが想定される。リアル HUG を実践することで、実際に災害が発生した時に、落ち着いて適切な対応ができるようになることを目的としている。

【講師】

日本防災士会 愛媛県支部

【内容】

1. オリエンテーション（班ごとの自己紹介など）
2. 講義（初動期の避難所開設・運営）
3. 避難所開設訓練（受付やトイレの設置等）
4. リアル HUG（運営と避難者に分かれて2回実施）

リアル HUG を実施する前段階として、避難所運営の実例を講義形式で学んだあと、実際に避難所として使用するトイレや受付等の設営を参加者全員で実施する。今回は小学校の体育館を避難所として利用している。本番では、運営者側と避難者側に分かれて2回実施するが、運営者側はリーダーや物資・食糧班などの役割を決め、リーダーを中心に作戦会議を行う。避難者側においても、要配慮者役やケガ人役などを割り当てる。

実施中は避難者からの要望への対応、避難所開設物資の準備等、次々に発生する課題に常に追われている状況となり、実際の避難所で起こりうるシチュエーションへの対応を学ぶことができる。



令和6年度の様子(講義)



令和6年度の様子(リアル HUG)

3.7 教員防災士の活動

3.7.1 各種教員防災研修、防災教育研修

1. はじめに

松山防災リーダー育成センターでは松山市教員委員会と連携して、松山市立の小・中学校における防災力の向上を目的に、各学校の教員が防災教育の担い手として活躍できるよう支援している。特に、教育現場での防災教育の質の向上は、児童・生徒の命を守ることに直結するため、実践的な知識とスキルの習得を目指し、各種の研修を実施している。

2. 主な取組内容

①教員エデュケーター研修

この研修は、「防災士」の資格を取得し、松山市立の小・中学校で防災教育を推進する教員を対象として実施しており、松山市教育委員会が主催で、毎年7～8月にかけて、2回実施している。研修では、毎回多彩なメニューを用意し、令和6年度は、学校の消防訓練の進め方や防火設備の管理、能登半島の被災状況についての講義を実施したほか、実技として救急救命講習や、後述する東日本大震災被災地視察研修に参加した教員に報告をしてもらった。また、参加者同士の意見交換の場を設け、災害が発生した際の各学校の対応、学校再開までの想定など、各校の情報を共有することで、防災意識の高揚と教員同士のつながりを深めることにもつながっている。



救急救命講習の様子

②初任者研修

初任者研修は、松山市教育研修センターが主催の採用1年目の教員を対象とした研修である。毎年1回実施しており、講義の一部として、松山市が取り組む「全世代型防災教育」や、防災教育の目的と意義について認識を深めるとともに、教員としての心構えについて参加者同士で意見を出し合い、思いを共有した。



初任者研修での講義の様子

③中堅者研修

中堅者研修は松山市教育研修センターが主催の採用5～10年目の教員を対象とした研修である。毎年1回実施しており、講義の一部として、能登半島地震にて特に学校で直面した現実と課題について学んだほか、学校における防災への取組の振り返りと改善点についてグループワークを実施した。



中堅者研修でのグループワークの様子

3.7.2 東日本大震災被災地視察研修

1. はじめに

松山防災リーダー育成センターでは、松山市立の小・中学校の教員を対象として、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地視察研修（2 泊 3 日）を実施している。この視察研修は、震災遺構の見学や語り部の方から話を聞くことで、当時の状況を具体的に知る機会であり、災害時における学校の役割や防災対策について理解を深めることを目的としている。

2. 主な視察先（令和 6 年度実施）

①宮城県 山元町震災遺構 中浜小学校

②福島県 浪江町震災遺構 請戸小学校

③宮城県 仙台市震災遺構 荒浜小学校

④宮城県 石巻市震災遺構 大川小学校

⑤宮城県 石巻市震災遺構 門脇小学校

※その他、原子力災害伝承館、女川交番、雄勝地区大堤防、石巻市教育委員会、旧南三陸町校舎、気仙沼市伝承館



山元町震災遺構 中浜小学校

3. まとめ

視察研修では特に「効果的な避難訓練と備え」「組織的な体制作りの重要性」が強調され、これらの視点から当時の災害への備えや防災体制の振り返りを行った。

参加者は地域の災害特性を理解し、過去の経験にとらわれず、将来起こりうる災害を想定し対処しておくことの重要性を強く実感した。被害の実例は、学校の場所や地形等の地理的特性に基づいた避難計画の有用性を示しており、特に山元町震災遺構中浜小学校（宮城県）では、児童や教職員、保護者ら 90 名の命を守り抜いた校舎を前に、事前の施設設備の強化と適切な避難行動をとるための対策がいかに命を救うかを実感することができた。また、地域と連携した組織作りや、情報収集の重要性についても学ぶとともに、限られた情報を元に、迅速かつ的確な避難行動が多く命を救った一方、一瞬の判断の遅れが悲劇を招いたケースも目の当たりにし、事前の準備と訓練の重要性を痛感した。

もしもの時「学校」は地域の拠り所になりうる場所であり、学校と地域のつながりが、発災時の迅速な避難行動やその後の避難所生活において重要となる。参加した教員にとってこの研修は、児童・生徒の安全を守るための重要な教訓を学ぶ場となり、防災教育の意識を深める貴重な機会となっている。

今後も、当センターではこの視察研修を継続して実施し、教員への研修を通じて松山市の児童・生徒が、自分の「命」や「ふるさと」を大切にする心を育むことにつなげていく。

3.8 防災教育サポート動画

現在、教育現場に広く ICT が活用されており、児童・生徒の ICT 活用能力は確実に向上している。動画の活用は、児童生徒の理解を高め、思考を深めることなどに効果的である。そこで、関係機関に協力をいただき、令和 3 年にオンライン授業などに対応できる 12 本の防災教育サポート動画を作成した。

完成した動画は、市内全ての小学校、中学校に DVD で配布し、防災教育に役立ててもらっている。また、松山防災リーダー育成センターの公式 YouTube でも公開している。このように学校における防災教育での活用は言うまでもなく、地域の自主防災活動などにも幅広く活用できる内容となっている。

作成し、公開した動画は以下の 12 本である。

1. 土砂災害について学ぶ
2. 洪水災害について学ぶ
3. 気象情報を災害に生かすー気象情報が出るまでー
4. マイ・タイムラインを作ろう
5. 地震に強い家・そなえる
6. 防災まち歩きをして防災マップを作ろう
7. 災害用伝言ダイヤル 171
8. 誰にとっても安心なまち
ーみんなが使いやすく生活しやすい避難所ー
9. 人間を救うのは人間だー日本赤十字ー
10. 災害における報道の役割
11. ハザードマップの見方を学ぼう
12. 防災訓練から災害時にできることを学ぼう



防災教育動画紹介チラシ

なお、動画作成に当たってはジュニア防災リーダークラブに参加している児童生徒に出演してもらった。また、動画制作には、国土交通省四国地方整備局四国山地砂防事務所、松山河川国道事務所、気象庁松山地方気象台、松山市防災・危機管理課、日本赤十字社愛媛県支部、松山市社会福祉協議会、日本公衆電話会・NTT 西日本、(株) 愛媛新聞社、DCM (株) に協力いただいた。

まとめ

- ・防災教育に広く活用してもらうために、12 本の防災教育サポート動画を作成し、公開した。
- ・これらの動画は、学校や地域での防災教育に広く活用されている。

3.9 デジタル版マイ・タイムラインを活用した防災教育

3.9.1 デジタル版マイ・タイムラインの概要

台風や大雨など、発生や接近がある程度予測できる災害から身を守るには、周辺の災害リスクを事前に確認し、警戒レベルに応じた避難行動計画「マイ・タイムライン」を予め作成しておくことが有効である。

松山市では、令和元年度から、産官学民が連携し、小学生から高齢者まで切れ目なく防災教育を行う「全世代型防災教育」に取り組み、令和4年度からは、風水害での適切な避難行動への結びつけと、逃げ遅れをなくすことを目的として、「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」を始めた。

「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」では、愛媛大学をはじめ、国土交通省や消防団、自主防災組織、地元ライオンズクラブと協力し、学校や地域、福祉施設を中心に、授業や研修を通じてマイ・タイムラインの普及を推進している。令和4年3月には、リニューアルした防災マップとともに、「マイ・タイムラインシート」を全戸配布した。

令和5年4月には、さらにプロジェクトを推進するため「Web版マイ・タイムライン」と「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」の運用を開始した。（「Web版マイ・タイムライン」と「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」を総称して「デジタル版マイ・タイムライン」という。）

「Web版マイ・タイムライン」は、市立中学1年生（約4,000人）を対象にマイ・タイムライン作成授業を行うために開発されたものである。タブレットを使用して、Web上で簡単にマイ・タイムラインが作成できる上、作成したデータは「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」と連携することで、家族のタイムラインとして共有可能となっている。

「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」は、市民向けに開発されたアプリで、スマートフォンの位置情報を活用して、簡単にマイ・タイムラインが作成できる。また、災害時には、発令中の避難情報や避難所開設情報、防災気象情報がプッシュ通知で受け取れる機能を備えており、家族や友達などをグループ登録することで、災害時の安否確認なども可能となっている。

「デジタル版マイ・タイムライン」の導入により、これまでの紙のマイ・タイムラインシートからデジタル化され、マイ・タイムラインの作成や家族での共有が容易になった。また、マイ・タイムラインを作成するだけでなく、避難情報等をプッシュ通知することにより、状況に応じた行動を速やかに確認できる実効的なツールのひとつとなっている。

これからも、風水害の逃げ遅れゼロを目指し、『災害を「我がこと」として捉え、適切な避難行動を実践できる市民』を一人でも多く増やす取組を推し進めていく。



松山市マイ・タイムライン防災アプリの紹介

3.9.2 普及への取組（中学生、自主防災組織）

1. 中学生

現在、松山市内全ての市立中学校で1年生を中心に約4,000人へマイ・タイムラインの作成授業を実施している。学校のタブレットを利用して作成したWeb版マイ・タイムラインは、保護者のスマートフォンにインストールした「松山市マイ・タイムライン防災アプリ」で共有することができ、子供から親へマイ・タイムラインが広げられている。



マイ・タイムライン作成授業の様子

また、「松山逃げ遅れゼロプロジェクト」の一環として、「とどけ！命のはがきプロジェクト」にも取り組んでいる。これは、防災について（マイ・タイムラインを含む）学習した中学生が、学んだ災害の危険性や避難の重要性等をはがきに書き、両親や祖父母、兄弟など、大切な人に送る取組である。はがきを受け取った人は災害や避難について考えるきっかけとなるだけでなく、大切な人を思いやる気持ちや命の大切さを伝えることで、家族や地域での防災意識を高め、「災害での逃げ遅れゼロ」を目指している。

この取組で生徒が使用する4,000枚を超えるはがきは、趣旨に賛同した松山中央ライオンズクラブから寄贈いただいている。また、このプロジェクトを広く周知するため、特に思いのこもったはがきを用いてポスターを作成し、愛媛県中予地区郵便局長会の協力を得て、中予地区内の約100箇所の郵便局に掲示し、市民全体の防災啓発に役立てている。

2. 自主防災組織

松山市内全41地区の自主防災組織が参画する松山市自主防災組織ネットワーク会議では、マイ・タイムライン作成研修会を開催している。研修では、地区の代表者らがマイ・タイムラインの基本的な作成方法を学び、後日、まちづくり協議会、高齢者クラブ、女性の会などを対象に、自分たちの地区で地域を守る防災リーダーとしてマイ・タイムラインを普及している。



松山市自主防災組織ネットワーク会議での研修の様子

逃げ遅れをゼロにするため、「浸水範囲にある防災資機材を移動させる」「水門を閉めに行く」「避難所を開設する」など、地域のタイムライン作成にも取り組んでいる。

過去に起きた災害や地域独自の危険場所など、地域に密着した情報はマイ・タイムライン作成に欠かすことのできない貴重な情報である。様々な世代にマイ・タイムラインが広がることで、自助・共助の輪が広がり、これからの防災を担う人材が育ち、地域防災力の向上につながっている。市では様式や作成の手引きをHPで公開することで、誰でも取り組みやすい環境を整えている。これにより、地域全体でマイ・タイムラインが広がるきっかけとなっている。